様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年５月２０日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2010～2012 年
課題番号：22520715
研究課題名（和文）
中央アジア出土古代ウイグル語手紙文書集成の構築
研究課題名（英文）Construction of a Corpus of the Old Uighur Letters from Central Asia
研究代表者
森安　孝夫（MORIYASU TAKAO）
大阪大学・文学研究科・名誉教授
研究者番号：７０１５７９３１

研究成果の概要（和文）：
この 3 年間で「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編・後編）」という長大な論文を完成し，日本語と英語の両方で出版することができた。これによって，世界中の研究所や博物館に散在するが，断片ばかりの多い中央アジア出土の古代ウイグル語文書の中から手紙類を抽出する作業の基準ができあがり，最終目標である『古代ウイグル語手紙文書集成』の完成に向けて大きく前進した。

研究成果の概要（英文）：
In these three years I have published a long article entitled “Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1 and 2)” both in Japanese and in English. This study offers a present stage of my work, with a focus on the formulae and special terms that served as criteria for the selection of letters. In order to pick out as many letters as possible from among the Old Uighur documents held by the institutes, libraries, and museums around the world, it is first necessary to analyze complete or almost complete letters, identify the special terms distinctive of letters, recover on this basis letters from among even small fragments, and by repeating this process ultimately educe the formulae and conventional phrases used only in letters. This study corresponds to the research volume of the *Corpus of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road*, which I am currently preparing for publication.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２０１１年度	1,300,000	390,000	1,690,000
２０１２年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：トルコ文献学，ウイグル，中央アジア，手紙，トゥルファン，敦煌

１．研究開始当初の背景

（１）古代ウイグル語の手紙文書をまとめて発表した先行研究としては，次の３件があるだけであった。

① S. Tezcan / P. Zieme, “Uigurische

Brieffragmente." In: L. Ligeti (ed.), *Studia Turcica,* Budapest: Akadémiai Kiadó, 1971,pp. 451-460, +6 pls.

②P. Zieme, *Manichäisch-türkische Texte.* (BTT V), Berlin: Akademie Verlag, 1975.

③J. Hamilton, *Manuscrits ouïgours du IXe-Xe siècle de Touen-houang.* 2 volumes, Paris: Peeters, 1986.

（２）それ以外にも，単発的に古代ウイグル語の手紙文書を取り上げた論文はあったが，その書式・定型句の包括的な研究，ないし他言語文書との文化交流を跡付ける研究は存在しなかった。

（３）これらの手紙類の大半はウイグル・マニ教徒かウイグル仏教徒の書き残したものである。しかしこれらには紀年がないので，歴史史料として活用するにも大きな限界があった。特に空白の多い中央アジア・マニ教史を構築するために，マニ教徒の手になるウイグル語の手紙の解読が期待されていた。

（４）史上から消え去っていた完全なマニ教絵画がこの日本で発見されて，その歴史的背景を探るために，ウイグル・マニ教史にこれまで以上の関心が注がれるようになっていた。

２．研究の目的

（１）断片類の多い中央アジア出土古代ウイグル文書の中から，手紙類を１件でも多く抽出するために最良の手段は，手紙書式と定型句を発見して，明確な基準を作ることである。

（２）これらの手紙類には紀年がないので，歴史史料として活用するための指標の発見を目指して，内容のみならず，紙質・形態・書体などについて精度の高い古文書学的情報の収集に努める。

３．研究の方法

（１）中央アジア出土古代ウイグル語手紙文書を所蔵する研究機関に赴いて，原物を実見調査する。

（２）集積した手紙文のテキストと古文書学的情報の分析のために，コンピュータを活用する。

（３）古代ウイグル語の手紙の書式と定型句を確定するためには，ウイグルと密接な文化交流をしたと思しき周囲の言語集団の残した多言語文書との比較研究にも注意を向ける。

４．研究成果

（１）古代ウイグル語手紙文とは，九世紀後半～一三世紀初頭に東部天山地方を中心にして存続した西ウイグル王国の人々と，その地がモンゴル帝国の支配下に入った一三～一四世紀のウイグル人によって，ウイグル文字を使い古ウイグル語で書き残されたものである。私がこれまでに明らかにしてきたウイグル宗教史の動向も踏まえてウイグル文の手紙文書全体を概観するならば，半楷書体で書かれた古いグループにおいては，マニ教徒のものが仏教徒のものより優勢であるが，草書体で書かれた新しいグループは，ほとんどが仏教徒のものであり，両者間にわずかにキリスト教徒のものが混じっている。しかし，いずれのグループにもイスラム教徒（ムスリム）が書き残したものはまったく存在しない。商用書簡の場合は，宗教性が文面に表れないことが多いが，それでもこの傾向は維持されていると想定してよい。それゆえ，草書体のものであれば，マニ教徒に関わることは絶無であり，まずは仏教徒ウイグル人の手になるものと考えて大過ない。

（２）この３年間では，古代ウイグル語手紙文の書式と定型句の発見という成果を挙げることができ，また他言語の手紙文書との比較研究にも見通しがついたので，それらをまとめた長大な論文「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編・後編）」を完成し，日本語と英語の両方で出版することができた。前編には第１～６章，後編には第７～12 章を収載した。全体として抽出できた書式は以下の通りである。

ウイグル手紙文の基本構造

[I] 冒頭書式
- A式　上行特定ヴィジュアル版
- B式　上行特定簡略版
- C式　下行特定ヴィジュアル版
- D式　不特定版Ⅰ（手紙の術語あり）
- E式　不特定版Ⅱ（手紙の術語なし）

[II] 挨拶書式
- [II-1] 基本的挨拶定型句
- [II-2] 宗教的挨拶文言
- [II-3] 受取人側の健康
- [II-4] 差出人側の安堵
- [II-5] 差出人側の健康

[III] 手紙本体
- [III-1] 本題導入書式
- [III-2] 頻用される術語と慣用句
- [III-3] 結語

[IV] 上書き

（３）[II-1] 基本的挨拶定型句は次の(1a)～(1g)から成る。

手紙は遠く離れた土地から出されるのが通例であり，先ずは (1a) *ïraq yir-dän/tin*「遠くの土地から」，またはその省略形 *ïraqtan*「遠くから」で始まり，しかもそれに対句的

に（1b) *yaγuq* (or *yaqïn*) *köng(ü)lin*「近い心で（もって）」が続くことがある。(1a)+(1b)「遠くの土地から近い心で（もって）」という対句表現はソグド語やコータン語やモンゴル語にも見られる。この起源がどこにあったかはまだ確定できないが，少なくとも（1a)だけならばはるかに遠くメソポタミアのウガリット語や中期バビロン語にまで遡ることがシムズ=ウイリアスによって指摘されている。次に来るのが，(1c) *isinü amranu*「心を熱くし，親愛の情を込めて」，(1d) *äsängüläyü*「挨拶をして」，ないしは（1e) *yinčürü yükünü*「身を屈めて敬礼し」などという慣用句である。さらにこれらに続いて文末を締めるのが，(1f) *üküš köngül ayïtu ïdur biz/män*「私（たち）は何度も御機嫌をお伺いして（手紙を）送ります」（上行・平行・下行のいずれにも使われる），あるいはその変形（1f') や省略表現である。さらに（1f) の敬語表現として，(1g) *üküš köngül ötünü täginür biz/män*「私（たち）は謹んで何度も御機嫌をお伺い申し上げます」（上行文書にのみ使われる）という言い回しがある。

（４）[II-3] 受取人側の健康は次の(3a)～(3j)から成る。

(3a) *ädgü+mü äsän+mü*「お元気でしょうか」，(3b) *köng(ü)li ädgü+mü*「彼（＝あなた）の御気分はよろしいでしょうか」，(3c) *yini yinik+mü*「彼（＝あなた）の御身体は軽やかでしょうか」。(3b) (3c) の両者は対句的に並列で出てくることが多い。(3d) *nätäg sän/sizlär; nätäg ärür (siz)*「君（たち）は如何ですか；（あなた方は）如何でしょうか」，(3e) *nätäg yarlïqar ärki/siz*「（あなた様は）如何でいらっしゃいますか」，(3f) *nätäg inč+mü sän/siz(lär); nätäg inč+mü ärki; nätäg inč ärki sizlär*「君／あなたは如何ほどに平安でしょうか」，(3g) *nätäg inč+mü yarlïqar ärki/mu*「（あなた様は）如何ほどに平安でいらっしゃいますか」。(3e) は (3d) の敬語であり，(3g) は (3f) の敬語である。(3a)～(3g) として列挙した質問形式の挨拶は，いずれも即座の回答を期待するものではなく，相手が健康であることを願って使われる常套句なのである。それゆえ，(3a)～(3g) のように明確に疑問の意を表す不変化詞 *mu* や疑問詞の *nätäg* を含む疑問文ではなく，はるかに弱い疑念を示すか，むしろそうあって欲しいと願うニュアンスを与える分詞である *ärki* を使って，(3h) *inč ärki sän/sizlär*「君（たち）は平安でしょうね」，ないしその敬語形の (3i) *inč yarlïqar ärki*「御健勝のことでございましょう」のような言い回しをすることもある。さらに後期（モンゴル時代）になると，(3j) *inč äsän bar/ärür ärki sizlär*「あなた方は平安で息災でしょうね」という表現も現れる。

（５）これまでの山田信夫・護雅夫を先駆者とする日本のウイグル語契約文書研究からは「漢文→ウイグル語→モンゴル語」という文字文化伝播の軌跡が判明していたが，森安の本論文によって新たに手紙書式の上では「ソグド語→ウイグル語→モンゴル語」という流れがあることを実証された。モンゴル民族は，文字文化（文書行政などを含む）の上ではまず第一にウイグルの影響を強く蒙ったのであり，モンゴル文字の雛形はウイグル文字である。そしてさらにウイグル文字の雛形がソグド文字であることに象徴されるように，ウイグル文化もソグド文化の強い影響にあったことが推定される。私は「ソグドからウイグルへ，さらにウイグルからモンゴルへ」という文字文化の大きな流れ，換言すれば文書行政も含む総体的な文化・社会システムの長期にわたる継承関係さえも想定しているのである。

（６）この研究成果は，従来の内外の研究ではほとんど明らかにされていなかったので，内外の学界でも高い評価を得つつあるようである。これによって，断片ばかりの多い中央アジア出土の古代ウイグル語文書の中から手紙類を抽出する作業の基準ができあがり，最終目標である『古代ウイグル語手紙文書集成』の完成に向けて大きく前進した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

（１）雑誌論文（計５件）

① MORIYASU Takao, “Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 2).” *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 52, 2012 年, pp. 1-98. 査読なし。

②森安孝夫「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（前編）」『大阪大学大学院文学研究科紀要』51, 2011 年, pp. 1-31 + 70-86. 査読なし。

③ MORIYASU Takao, “Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road (Part 1).” *Memoirs of the Graduate School of Letters Osaka University* 51, 2011 年, pp. 32-86. 査読なし。

④森安孝夫「内陸アジア史研究の新潮流と世界史教育現場への提言」『内陸アジア史研究』26, 2011 年, pp. 3-34. 査読なし。

⑤森安孝夫「日本に現存するマニ教絵画の発見とその歴史的背景」『内陸アジア史研究』25, 2010, pp. 1-29. 査読あり。

（２）学会発表（計４件）

①森安孝夫「モンゴル時代までの東部内陸アジア史：実証研究から世界史教育の現場へ」，内陸アジア史学会 50 周年記念公開シンポジウム「内陸アジア史研究の課題と展望」，2010 年 11 月 13 日，早稲田大学小野講堂。

②MORIYASU Takao, “Reconsideration on the epistolary formulae of the Old Uighur letters unearthed from the Eastern Silk Road.” Collegium Turfanicum, at BBAW, 25 August 2010, Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften (Germany).

③森安孝夫「シルクロード成立後の北の遊牧国家，南の拓跋王朝，まとめた中央ユーラシア型国家」，大阪大学歴史教育研究会大会「阪大史学の挑戦 2」，2010 年 8 月 10 日，大阪大学中之島センター。

④森安孝夫「ソグドからウイグルへ ――シルクロード東部の手紙文書」，大阪大学歴史教育研究会大会「阪大史学の挑戦 2」，2010 年 8 月 10 日，大阪大学中之島センター。

（３）図書（計３件）

①森安孝夫「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（後編）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』汲古書院，2011 年，pp. 335-425. 査読なし。

②森安孝夫「日本におけるシルクロード上のソグド人研究の回顧と近年の動向（増補版）」，森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』汲古書院，2011，pp. 3-46. 査読なし。

③MORIYASU Takao, “The Discovery of Manichaean Paintings in Japan and Their Historical Background.” In: Jacob Albert van den Berg et al. (eds.), *‘In Search of Truth’: Augustine, Manichaeism and other Gnosticism. Studies for Johannes van Oort at Sixty*, (Nag Hammadi and Manichaean Studies, 74), Leiden / Boston: Brill, 2011, pp. 339-360. 査読あり。

６．研究組織

(1)研究代表者

森安　孝夫（MORIYASU TAKAO）

大阪大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：７０１５７９３１

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし